

創立70周年 記念誌

NUMAO HOSPITAL

The 70th Anniversary
in establishment
commemoration magazine



医 療 法 人 社 団

洋精会 沼尾病院



NUMAO HOSPITAL

マークのデザインコンセプト

社会福祉の先進国スウェーデンに古くからある人間愛に基づく言葉 Om s o r g（オムソーリ）とは本来（誰かのことを）気にかける、或いは悲しみを分かち合う、（お互いを）かばい合う、面倒をみるということを意味する。これはあらゆる看護、介護、養護という概念を包括するという。

沼尾理事長の経営ポリシーはこの人間愛にあることから、この言葉のイニシャル O を基本モチーフとし、O の内周は社会福祉法人・宝生会を表現するオーバルとした。

卵は生命の源を表し、黄味にあたる円のサイズはマーク全径の黄金比 1 : 1.618 となって宝を意味づけた。

また医療法人社団・洋精会の洋と沼尾病院の沼を中心の円で水面の輪が限りなく地球的に広がる様子としてイメージした。インクリーズする輪の比も黄金率となっている。

シンボルカラー

ベースの O はオレンジレッドで暖かい心と尽きない情熱を象徴し、内にある円は生命の起源である水と空気を表すターコイズブルーとした。

<作者>

平成4年4月 田 仲 俊 夫



沼尾病院南側より正面玄関を望む



沼尾病院東側より

医療法人社団洋精会沼尾病院 創立70周年記念誌 目次

創立者	沼尾義精プロフィール		1
前理事長	沼尾嘉時プロフィール		2
創立70周年によせて			
遺志を引き継いで	医療法人社団 洋精会 理事長	沼尾 成美	 3
医療と介護サービス	洋精会 常務理事	古谷耕資郎	 6
祝辞			
創立七十周年を祝して	洋精会 理事	小林 芳夫	 7
創立70周年を祝う	洋精会 監事	川原 丈貴	 8
宇都宮市内の景色も様変わりしました	洋精会 理事	宮田 初男	 9
時間術	洋精会 評議員	金田 曄	 10
医療法人社団洋精会の紹介			
..... 11			
関連施設紹介			
..... 12			
70年のあゆみ			
..... 15			
創立70周年を祝して			
高齢者への医療	沼尾病院 院長	古谷耕資郎	 17
沼尾病院創立70周年を祝って	沼尾病院副院長	池之内 力	 18
沼尾病院の展望	沼尾病院 診療部長 内科	並木 賢司	 19
岡 宗男医師の紹介 ～沼尾病院 医局より～			 20
沼尾病院創立70周年を記念して	沼尾病院 外来医師	瀬尾 弘司	 21
部門紹介			
沼尾病院			
外来	看護部 看護師	石塚ム女子	 22
入院病棟	看護部 師長	藤田 育子	 23
	看護部 師長	田寄 歩美	 24
放射線	レントゲン室 放射線技師	井上 英夫	 25
薬局	薬剤師	小堀久美子	 27
検査室	臨床検査技師	杉本 恵子	 28
事務室	沼尾病院 事務長	吉川 洋	 29
手術室・中央材料室			 31
売店			 32
保精			 32
通所リハビリテーション	理学療法士	湯浅 英貴	 33
栄養課	管理栄養士	長岡 広美	 35
在宅医療部	事務 副主任	菊池 豪	 37
在宅総合センター			
在宅総合センター	センター長	木立 三枝	 38
訪問看護ステーション 星が丘	所長	阿部 フミ	 39
ヘルパーステーション ぬまお	サービス提供責任者	今村 久子	 41
ケア工房 野の花	主任 介護支援専門員	田中 宣行	 43
地域包括センターきよすみ	副主任 看護師	武田 安子	 45
ぬまお内科	看護師	石塚ム女子	 47
患者様からの声			
嘉時先生への手紙		小野沢 久	 49
故沼尾先生との思い出		長谷川雅士	 50
祝 創立七十周年 ―お世話様を頂いております―		北村 作二	 51
妻との日々		佐々木剛一	 52
洋精会名簿			
..... 53			
編集後記			



沼尾 義精 1902 ～ 1987

明治35年11月10日

栃木県塩谷郡藤原町に生まれる

学 歴

大正11年3月 栃木県宇都宮中学校卒業
昭和2年3月 水戸高等学校理科乙類卒業
昭和6年3月 長崎医科大学卒業
昭和33年2月8日 医学博士授与(第2847号)
(慶應義塾大学)

職 歴

昭和13年7月8日
栃木県宇都宮市戸祭町2019番地(現、宇都宮市
星が丘1-7-38)に沼尾医院開業
(標榜診療科目、肛門科、皮膚科、産婦人科、内科)
昭和43年3月30日
特定医療法人社団洋精会沼尾病院認可
昭和57年2月1日
同病院長、理事長を辞し同病院名誉院長となる
役職等

自昭和18年4月1日
至昭和44年3月31日 宇都宮市立戸祭小学校医
自昭和21年11月
至昭和26年7月 栃木県医師会代議員
自昭和22年4月 栃木県医師会保険委員(県下
至昭和26年7月 医師会を巡回、保険の適正
診療について指導する)
自昭和22年6月
至昭和24年3月 宇都宮市医師会理事
自昭和24年4月
至昭和26年3月 宇都宮市医師会副会長
自昭和23年9月
至昭和26年5月 栃木県社会保険診療報酬支
払基金審査委員

自昭和30年5月

至昭和49年5月

昭和49年5月

自昭和44年4月

至昭和57年4月

自昭和45年5月

至昭和53年5月

自昭和53年5月

自昭和54年5月

至昭和57年6月

自昭和57年6月

自昭和59年10月

自昭和60年5月

自昭和61年3月

自昭和61年3月

自昭和61年3月

自昭和61年3月

自昭和61年3月

自昭和61年3月

自昭和61年3月

自昭和61年3月

自昭和61年3月

自昭和61年3月

自昭和61年3月

自昭和61年3月

自昭和61年3月

自昭和61年3月

自昭和61年3月

自昭和61年3月

自昭和61年3月

自昭和61年3月

自昭和61年3月

栃木県病院協会理事

栃木県病院協会副会長

宇都宮市戸祭公民館審議委員

宇都宮市戸祭公民館審議委員

宇都宮市戸祭公民館審議委員

宇都宮市戸祭公民館審議委員

宇都宮市戸祭公民館審議委員

宇都宮市戸祭公民館審議委員

宇都宮市戸祭公民館審議委員

宇都宮市戸祭公民館審議委員

宇都宮市戸祭公民館審議委員

宇都宮市戸祭公民館審議委員

宇都宮市戸祭公民館審議委員

宇都宮市戸祭公民館審議委員

宇都宮市戸祭公民館審議委員

宇都宮市戸祭公民館審議委員

宇都宮市戸祭公民館審議委員

宇都宮市戸祭公民館審議委員

宇都宮市戸祭公民館審議委員

宇都宮市戸祭公民館審議委員

宇都宮市戸祭公民館審議委員

宇都宮市戸祭公民館審議委員

宇都宮市戸祭公民館審議委員

宇都宮市戸祭公民館審議委員

宇都宮市戸祭公民館審議委員

宇都宮市戸祭公民館審議委員

宇都宮市戸祭公民館審議委員

宇都宮市戸祭公民館審議委員

宇都宮市戸祭公民館審議委員

宇都宮市戸祭公民館審議委員

宇都宮市戸祭公民館審議委員

褒 章

昭和42年5月8日

金色有功章をおくらの(日本赤十字社)

昭和47年10月31日

紺綬褒章を賜る(日本赤十字社)

昭和56年5月29日

感謝状を受ける(宇都宮税務署長 野中己子男)

昭和61年5月23日

厚生大臣表彰(日本医療法人協会における功績)

昭和61年5月25日

ライオンズクラブ国際協会333地区ガバナー



沼尾 嘉時 1946 ～ 2006

昭和21年5月16日 栃木県宇都宮市に生まれる

学 歴

昭和40年3月 栃木県立宇都宮高等学校卒業
 昭和47年3月 横浜市立大学医学部卒業
 昭和57年3月 医学博士授与
 「サルコイドシスにおける心病変の
 診断と治療」

略 歴

昭和47年4月 東京女子医科大学日本心臓血圧
 研究所内科入局
 昭和57年2月 医療法人社団洋精会 沼尾病院
 理事長及び院長となる
 昭和61年12月 社会福祉法人宝生会設立 理事長
 昭和62年4月 同法人特別養護老人ホーム
 敬祥苑開設
 昭和63年2月 同法人デイサービスセンター（敬祥
 苑）事業開設
 平成4年4月 同法人老人保健施設白楽園開設
 平成4年11月 同法人老人在宅介護支援センター
 開設
 平成5年2月 同法人老人デイケア事業開始
 平成6年4月 同法人老人居宅介護（ホームヘル
 パー）事業開始
 平成8年4月 医療法人社団洋精会 訪問看護
 ステーション星が丘開設
 平成8年11月 医療法人社団洋精会ぬまお内科
 開設

平成10年3月 医療法人社団洋精会 在宅介護
 支援センターきよすみ開設
 平成12年4月 医療法人社団洋精会 ヘルパース
 テーションぬまお開設
 平成12年4月 居宅介護支援事業者（沼尾病院・
 白楽園・敬祥苑）
 平成15年7月 社会福祉法人宝生会
 老人保健施設 白楽園管理棟 増設
 平成15年11月 医療法人社団洋精会 沼尾病院
 通所リハビリテーション開設
 平成16年4月 社会福祉法人宝生会グループホー
 ムカトレア開設
 平成18年4月 地域包括支援センターきよすみ開設
 くにもと地域包括支援センター開設
 ケア工房野の花開設（居宅介護支
 援事業者）

団体役職等

（社）日本医療法人協会 理事
 栃木県病院協会 監事
 栃木県私的病院会 監事
 栃木県老人保健施設協議会 理事
 栃木県社会福祉施設経営者協議会 会長
 栃木県特別養護老人ホーム運営協議会 会長

褒 章

平成18年10月 厚生労働大臣表彰
 平成18年10月 従六位瑞宝双光章

遺志を引き継いで

医療法人社団洋精会沼尾病院
理事長 沼尾 成美



沼尾病院は昭和13年7月に義父沼尾義精が沼尾医院を開業してから創立70周年を迎えることになりました。人生でいえば古希にあたる今日までの70年という長い歴史、その中で一步一步あゆみを進めることができましたのも、ひとえに先代から続いている皆様方の多大なるご理解ご支援の賜物と心から厚く御礼申し上げます。

医療法人社団洋精会沼尾病院の前理事長であり、私の夫でもあった沼尾嘉時は、平成18年10月30日永眠いたしました。早すぎる旅立ちをどなたからも惜しまれ、心からの哀悼の言葉をお寄せいただきました。私にとっても、夫の死去はたとえようもないほど大きく深い悲しみでしたが、一方で夫の遺志を引き継ぐためには私自身がしっかりしなければいけない、そう自分に言い聞かせもしました。亡夫は洋精会理事長のほか、特別養護老人ホーム「敬祥苑」、老人保健施設「白楽園」、グループホーム「カトレア」を運営する社会福祉法人宝生会理事長として、また内科医として診療にあたりながら各施設の運営に携わっていましたが医療職を除く理事長としての職責を私が引き継ぎました。それまでも常務理事として関わりはしていたものの、実際に継いでみるとその重責の大きさをひしひしと感じさせられる毎日でした。無我夢中の日々というのが正直な思いです。こうして無事に70周年を迎えることができたのは、日常お世話になっている役員の先生方はじめ職員の方たちの力強い支えがあったからこそ、改めて心より感謝申し上げます。

夫の他界後、私的な面では昨年9月に沼尾嘉時著「オムソーリ～肺がんと闘った医師の記録～」を、近代文芸社より刊行いたしました。あまりにも苛酷な宣告を受けた夫が仕事と闘病を両立させながら、その間に書いた遺著です。生い立ちから死去までの自叙伝であると同時に、沼尾病院の歴史をたどるものですが、その序章にこう書かれています。

『地方の医者の子に生まれた私はやがて自分も医師の道を歩み、結婚して家庭を築き、父の病院を継ぎました。そして、がんにかかるまでの今日までの日々、そこには楽しい思い出もいっぱいあれば、苦勞したこと、辛い記憶もたくさんあります。でき得るかぎり正確に、そして率直にそれらをたどり、書き残しておくことが、いまは亡き両親、妻

や子供たちの家族、友人や職員たちに対する責務でもあり最後の仕事かもしれない、そう決意して、この序章から書き始めました。告知された余命の期間は乗り越えましたが、いつ旅立つことになるかもしれません。それまでに何とかまとめられることを祈りながら、筆を進めていきたいと思います。』

残念ながら夫の祈りはかなわず、本の完成を見届けることなく逝ってしまいましたが、いまは天国で読み喜んでくれていることと思います。本にするため、夫の残した原稿やメモを整理しつつ何度も読み返しました。そのつど、沼尾嘉時という人間が医師としても家庭人としてもひたすら理想を求め、誠実を貫く生き方をしてきたことが、改めて胸に迫ってきたものでした。

思い起こせば父の沼尾義精によって創立された沼尾病院に亡夫が着任したのが昭和54年11月でした。病院の大改築とともに、やがて理事長・院長職を継承し、翁先生の創立精神のもと、地域医療の中核としていまの先生方をお迎えして病院を発展させてまいりました。一方で、高齢化社会を見越して各福祉施設を設立し、現在に到りましたが、すべてが順風満帆に進んだわけではありません。夫は遺著で「病院経営の荒波」と述べておりますが、まさに山あり谷ありの歳月でした。そんな中でも常に医療・福祉の近未来像を追い求めていました。10年前、つまり創立60周年の記念誌に前理事長はこう記しております。「今後は病院を中心にこれらの機能を統合活用し、何よりも障害を持った患者さん、高齢者の方々の快適な病気療養並びに福祉の様々な局面で微力ながら貢献して行きたいと思っております」

この文章を記して5年後に自分自身が病を背負いました。しかし真摯に前向きの姿勢は最期までまったく揺るぎませんでした。それは医療者としてのあるべき究極の姿のように思えたものでした。

前理事長逝去から2年目に入りましたが、これまで洋精会や宝生会をどう継承し、どう発展させていけばよいのか、常に考えてまいりました。創立者沼尾義精の理念を二代目理事長の夫が引き継ぎ発展させたように、前理事長の遺志を正しく受け継ぐことが私に課せられた責務と思っております。

浅学非才のうえ経験も乏しい私には至難の課題ですが、心強い道しるべが手本に残されています。前理事長は沼尾病院の新たな「運営理念」と「運営方針」を考案発表し、どちらも現在にいたるまで当病院の運営の基本理念・指針として、確固としたものになっており、それをここに揚げさせていただきたいと思います。

医療法人社団洋精会沼尾病院 運営理念

- I 栃木県宇都宮市のほぼ中央に存在する許可病床数100の病院として、医療法第1条2の精神に基づき、地域の人々に次の様な医療を提供する。
- 1 生命の尊重と個人の尊厳を保持し、利用者と病院との信頼関係を築き、医療を展開する。
 - 2 医療を受ける者の心身の状況に応じ、疾病の治療のみならず、予防、生活指導、リハビリテーションを含む包括的な医療を提供する。
 - 3 小回りのきく24時間体制のプライマリケアを中心に行い、他の医療機関との連携を進める。
 - 4 老人福祉施設や老人保健施設の協力病院としての機能を含め、高齢化社会に対応すべく福祉との連携のもと老人医療を推進する。
 - 5 地域の在宅医療とケアを支援する。
- II 医療・介護の実践の場において、サービスに関する6つのキーワードを念頭において行動する。
- 1 「美」キレイ、清潔、院内感染防止
 - 2 「優」やさしい、暖かい、思いやり
 - 3 「説」説明、コミュニケーション、インフォームドコンセント
 - 4 「楽」明るい、楽しい、苦痛のない
 - 5 「早」早い対応、早期回復
 - 6 「安」安心、安全、安い費用

故沼尾嘉時の追い求めていた医療・福祉の基本がこれです。また、自らの病との闘いを通して前理事長が実践した「患者さんの悩みや苦しみ辛さなどを共感しながら耳を傾けること」これもまた医療のみならず、福祉もふくめた原点であり理想でもあるでしょう。残された私たちにとっては道を照らしてくれる明かりのように思えます。厳しい医療界の中でその明かりに従って歩み続ける覚悟でございますが、それには皆様方のこれまで以上のご指導やご協力を仰がねばなりません。どうか一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたがこの70年史の発刊にあたりご寄稿いただきました方々に深く御礼申し上げます。

医療と介護サービス



洋精会 常務理事 古谷 耕資郎

洋精会が60周年を迎えた10年前、医療制度の大改定により、それまで全床一般病院として運営されていた沼尾病院は療養病床を取り入れ、「ケアミックス」の入院診療を導入しました。疾病の後遺症のために長期に医療サービスを利用して療養が必要な高齢者が増えたからです。

一方、高齢者のご夫婦、独居世帯が増加して居宅サービスの需要が増えてまいりました。居宅サービスに対応して、洋精会の事業として訪問診療、訪問看護、在宅介護支援センターが軌道に乗ってきました。その2年後に施行された介護保険の後押しもあって、この8年間に、ホームヘルプ事業、通所リハビリテーション、居宅支援事業、地域包括支援センター事業を次々に立ち上げました。

利用者は順調に伸びて、高齢者を中心に障害を抱えて自宅で暮らす方々を支える一助になっています。

その間に医療制度は目まぐるしく改定を繰り返し、沼尾病院の病床はすべて療養病床として、医療保険、介護保険どちらを使っても入院可能な病床が整いました。窓口負担の自己負担増、クリニック開業数の急増もあって、外来数は減少しておりますが、高齢者の数は今後も増えるため、今後も利用者にとって必要な病床であることには変わりありません。

このようにして、法人が大きく事業を展開してきた中で、一昨年、先頭に立って指導してこられた沼尾嘉時理事長が逝去されてしまいました。長年、沼尾嘉時理事長と共に医療福祉の分野で活躍された沼尾成美新理事長のご就任に伴い、私は常務理事の大役を拝命いたしました。新しい理事・評議員の皆様のお力もいただき、微力ながら、高齢者を支える諸事業がこれまでどおり円滑に運営され、さらに発展するように努力いたします。一昨年は、看護部長として長年病院の運営に尽力された石堂洋子氏も逝去されました。この年は、洋精会にとって大切な人材をふたりも失った悲しい年でしたが、おふたりが人生半ばにして達成できなかったさまざまな事業を受け継いで発展させなくてはなりません。

高齢者が増えて労働人口が減少する今後10年は、医療・介護制度もそれに合わせて今までよりも早く変化していくものと予想されます。

医療制度では、後期高齢者医療保険制度、療養病床再編、疾病ごとの包括払い制度の導入などが検討され、介護保険も毎年のように内容が見直され上に、定期的な大きな改定もあります。いずれの保険においても、緊縮財政、物価高騰のもとでの運営を強いられるようになるでしょう。

しかし、洋精会は、合理的な経営を模索しながら医療介護サービスを通じて高齢者の安心した老後の一助になるように今後も努力していきます。

創立七十周年を祝して



洋精会 理事 小林 芳夫

創立70周年おめでとうございます。
創立60周年記念誌上で当沼尾病院の発展については述べましたが、この10年間の発展充実ぶりは実に目ざましいものがありました。

当病院がこの難しい時代に隆盛の一途を辿れた事は、まことにすばらしい事でしたが、これは今は亡き前理事長沼尾嘉時先生の卓抜な経営力とご努力にあった事を忘れるわけにはいきません。

沼尾嘉時先生が昭和54年当病院に帰られて以来、病院はますます発展したのです。

それは嘉時先生が現代社会の要請を把握して、老人福祉に病院経営の主眼を置き、着々と事業の拡大充実を図られたからです。敬祥苑・白楽園・デイサービス・在宅医療その外多数の施設とその繁栄はその結晶です。

このような発展繁栄の大もとは先生のすばらしい人格にあると思います。患者第一に、また病院等の職員に対する深い愛情、医療に対する責任感、使命感等であると思います。

特に自分の事より患者優先、癌にかかられてからの先生の行動には頭が下がります。

私も患者ですが先生はご自分の病気の事は一切話さなかったので、肺癌でしかも相当進んでいたとは思いませんでした。今思うと慚愧に堪えません。

先生がお亡くなりになる一ヶ月前、私が腸の調子が悪いので先生のご紹介で東先生の所で大腸の内視鏡検査を受けました。幸いガンはなしの診断で先生に申し上げようとした矢先、先生から電話をいただきました。「ガンではありませんでした」と云うと、「よかった、よかった」と喜んで下さったのですが、その折、先生が私の方が癌にやられて転移して今病院に入院しているとの事だったので、びっくりして病院をお聞きしたの

ですが、奥様から誰にもお知らせしないのでとお断りでしたが、なをお願いすると先生のお許しがでて、ガンセンターだとお知らせ頂きました。私も兄の葬儀で取り込みがあり、10月21日家内と共に病院にお見舞いに伺いました。先生はわりに元気そうに見え「退院したら車椅子で病院に行こうと思う」といわれたので、まさかこんなに早く逝かれるとは思いませんでした。10月30日の朝、先生がお亡くなりになったというお知らせを奥様から戴きびっくりしました。10日前にお目にかかった折のご様子からは信じられない思いでした。

ご自分が癌で苦しい筈なのになお私の事を心配して下さい、お見舞した時もお自分の苦痛を感じさせまいと我慢されたのでしょうか。その苦しみはいかばかりだったか、鈍感にも私は少しも気付かなかった事に申し訳なさでいっぱいでした。

ここに先生の患者への愛情、自分の事より患者の事を優先する先生の人間としての優しさを身をもって痛感したのです。

本当にすばらしい先生でした。ご自身が癌の治療を受けながらの病院全体のお仕事は何と辛かった事でしょう。それを我慢してやり遂げた先生の崇高な人間愛に基づくご信念ご意志の強さにただただ感じ入るばかりです。先生の御遺著「オムソーリー」を読ませて戴きな先生の偉大さを感じました。

その後は現理事長様が前理事長先生の御遺志を継がれ、病院の充実を図られ、それにご子息倫義様、病院の先生方、職員の方々のご努力で、着々成果を挙げておられる事は大変すばらしい事と存じます。

私達理事は安心して現理事長様の方針のもとで、できるだけ御協力申し上げたいと思っております。

創立70周年を祝う



洋精会 監事 川原 丈貴

医療法人社団洋精会沼尾病院が創立70周年を迎えられましたこと、衷心よりお祝い申し上げます。

一般に会社の寿命は30年と言われており、今回沼尾病院が70年を迎えられることは、特筆すべきことだと思います。医療という座の上に安住するだけでなく、地域のことを思い、貪欲に先駆的な取り組みをされてきた結果としての、70年という区切りではないかと思っております。

初代沼尾義精先生が70年前に沼尾医院をご開設なられ、今日まで地域医療になくてはならない存在として活躍されてきました。肛門疾患を中心とした医療機関からはじめられ、医療法人化そして特定医療法人の認可を受けられ、地域医療のニーズに応える形で消化器外科、循環器内科、整形外科など標榜を増やされ、ご活躍されてきました。その後も、在宅医療部の設置、療養型病床群の導入、訪問看護ステーション、在宅医療介護センターの併設など、積極的な展開を図られました。

一方、福祉分野において社会福祉法人宝生会を設立され、特別養護老人ホーム敬祥苑、老人保健施設白楽園、グループホームなどを展開されてきました。

それらグループの中心として存在するのが沼尾病院であり、今後もますますの活躍が期待されております。

平成18年10月30日に沼尾嘉時先生が逝去されました。医療・福祉複合体としての組織を作り上げ、そして強固なものにしてきたのは、沼尾嘉時先生に他なりません。病院を中心に、特別養護老人ホームや老人保健施設、グループホームや在宅関連など展開し、それぞれが連携しながら地域に貢献していく複合体の優位性は現在実証されてきています。この複合体化を推進された沼尾嘉時先生の確かな先見性があったからこそ、地域に対しての貢献が実現されたのだと確信しております。

70年目の節目を迎えられた今日、医療界は激動の中にあります。国家財政の破綻からくる社会保障関連費用抑制政策、医師不足などに起因する医療崩壊など、医療を取り巻く環境は決してよい状況にあるとは言えません。このような状況下でも、沼尾病院が「オムソーリ」の理念の下、地域医療・福祉への貢献をされ続けることは、一つの光明となっております。

今後とも、沼尾成美新理事長のもと一丸となり、一層のご発展をなされますことを念じております。

宇都宮市内の景色も様変わりしました



洋精会 理事 宮田 初男

平成も20年になり市内の景色も様変わりしました。

洋精会様も70周年を迎え、益々の隆盛をお喜び申し上げます。

さて、何かをと思いましたが、かつて義精大先生が理事さんを集め、さくら会と言う親睦会を主催した時代がありました。私達は先生のもと、旅行、飲み会と大変楽しませて頂きました。

昭和54年、さくら会25周年を迎えるに当り、何か記念になることはないかなと義精大先生が口火を切り、何かないかと訪ねられましたので「先生、二荒山神社の石段の両脇が荒れ放題になっているので、そこを整備し庭園でも奉納したら末代まで残りますよ」と・・・すかさず「それは良い案だ！

皆に計って、すぐにやりましょう」との返事を頂き、計画、見積(350万円)、設計、施工と、とんとん拍子に運び、二荒山神社の大祭の秋山祭に見事な庭園が完成。二荒山神社宮司様はじめ、市民の人達に喜ばれ、神社の玄関口に現在もきれいに整備され、市民の目を楽しませております。

最近の報道で新うえのビルの跡が24階のビルに変身。ビルがセットバックする為、この庭園が益々全面に出てくることになりました。ビルが建ち上がりました際には、是非、皆様も石段を登って御参拝下さい。景色が変わっても当時の洋精会の理事さんの名前が入った碑が宇都宮の一等地に輝いて見えることでしょう。

これも義精大先生の遺徳を偲ぶ一つではないでしょうか。



時間術



洋精会 評議員 金田 暉

医療法人社団洋精会の70周年を迎えられ誠にめでたく心よりお喜び申し上げます。企業のライフサイクルは30年と聞いております。洋精会はふた周り後の10年間で過ぎようとしております。この10年は亡き前理事長嘉時先生が、今後の医療は「地域医療及び福祉の分野で社会に貢献する」というお考えを示された基礎固めの期間であり、これからの10年は亡き嘉時先生のご遺志を継いで行かれる沼尾成美理事長とスタッフの方々が更に融合され、地域密着による根の張った医療、福祉で多くの人達が待ち望んでいる安心して毎日の生活を送る事の出来る為に、存在価値のある「洋精会」がますます必要不可欠に成ると思われれます。その為にも今後、尚一層のご尽力を戴きたくお願い申し上げます。

さて、私事ですが、地域医療の中核である沼尾病院の翁先生に公私と共にお世話になっていた父の没後、嘉時先生より評議員の推薦をいただき現在に至っております。

昨年の10月22日に故沼尾嘉時理事長を偲ぶ会にご案内戴きました。その時に「オムソーリー」嘉時先生の波乱に満ちた生涯が凝縮された一冊の本を頂きました。帰宅してから読み始め驚きと納得と感謝の気持ちで読み終えました。そのひとつは、私が昭和60年2月に入院し手術を終えた夜中に「コッソ」「コッソ」という音が遠くの方から近づき部屋の前を通り去っていきました。

背筋がゾクゾクしました。翌日も「コッソ」「コッソ」と音が近づき去っていきました。嘉時先生の本の中で納得いたしました。

それは、60周年記念誌に現成美理事長が投稿された翁先生についての文章でした。

「毎夜消燈後欠かさず病院内外を回り火の元戸締まり等、安全確認を習慣のように続けて…」と「コッソ」「コッソ」は翁先生の夜の巡回時の杖の音でした。平成15年、16年続けて両親を失いましたが医療看護等で大変お世話に成りました。また、両親の旅立ちにもご参列賜りましたがこの頃は既に病魔と闘っていた時期でした。会議等で何度もお話を致しましたが全然気がつきませんでした。本を通して先生の命に対する考えが私なりに理解し私の机に貼ってある切り抜きを読み直しました。

聖路加国際病院日野原理事長が小学生を相手に「命の授業」のお話しです。命の大切さを知って貰う事が目的です。命ってどこにあるのと聞きます。子供は心臓を指しますが「心臓は血液を送るモーターだ」というと考え込みます。そこで「命とは君たちが使える時間のことだよ」自分で使いたい様に使える時間こそが命なのです。「その時間を自分の為にだけ使っているのか」と問い掛けると色々な反応が返ってきます…。何故か 冷静沈着そして人懐っこい笑顔の先生が浮かんできました。



医療法人社団洋精会の紹介

沼尾病院

- 住所 宇都宮市星が丘1丁目7番38号
- 電話 028-622-2222
- 敷地面積 3,300㎡、鉄筋3階建（一部2階）
- 設立年月日 昭和13年開業 昭和26年 沼尾医院から沼尾病院へ改組
昭和43年3月30日 特定医療法人社団洋精会認可
- 許可病床数 医療療養型病床50床 介護療養病床50床
- 診療科目 内科、循環器科、胃腸科、外科、整形外科、麻酔科
肛門科、皮膚科、放射線科

沼尾病院 通所リハビリテーション

- 住所 宇都宮市星が丘1丁目7番38号
- 電話 028-622-2222
- 敷地面積 3,300㎡、鉄筋2階建東北部1階部分
- 開設年月日 平成15年11月1日
- 定員 40人

ぬまお内科

- 住所 宇都宮市宝木本町2141-5
- 電話 028-665-6511
- 敷地面積 967.28㎡
- 開設年月日 平成8年11月18日
- 事業内容 無床診療所

訪問看護ステーション 星が丘

- 住所 宇都宮市星が丘1丁目7番38号
- 電話 028-623-0337
- 開設年月日 平成8年4月1日
- 事業内容 訪問看護

ケア工房 野の花

- 住所 宇都宮市星が丘1丁目7番38号
- 電話 028-622-6712
- 開設年月日 平成12年4月1日
- 事業内容 居宅介護支援事業

ヘルパーステーション ぬまお

- 住所 宇都宮市星が丘1丁目7番38号
- 電話 028-600-3288
- 開設年月日 平成13年4月1日
- 事業内容 指定訪問介護

地域包括支援センターきよすみ

宇都宮市委託事業（平成18年4月1日、介護保険制度改正により在宅介護支援センターきよすみから名称変更）

- 住所 宇都宮市星が丘1丁目7番38号
- 電話 028-622-2243
- 開設年月日 平成10年3月1日
- 事業内容 ①総合相談・支援業務、②介護予防ケアマネジメント業務、
③虐待防止・早期発見、権利擁護
④包括的・継続的マネジメント業務

関連施設紹介



◎特別養護老人ホーム敬祥苑（社会福祉法人宝生会）

- 所在地 宇都宮市宝木本町2141番地
- 規模 指定介護老人福祉施設 定員50名
老人短期入所事業
(4名、指定短期入所生活介護)
老人デイサービス事業（指定通所介護）定員24名
老人居宅介護等事業（指定訪問介護）
指定居宅介護支援事業
地域包括支援センター
訪問事業として給食サービス

○開設 昭和62年4月

○ねたきりや認知症などで常に介護を要する要介護度1～5の認定を受けている方が利用できます。また、居宅サービス事業の介護予防事業は、要支援1以上の認定を受けている方が利用できます。



◎老人保健施設 白楽園（社会福祉法人宝生会）

- 所在地 宇都宮市宝木本町2140番地2
- 規模 入所 定員100名
(認知症専門棟50床、短期入所療養介護を含む)
通所リハビリテーション 定員30名
指定居宅介護支援事業

○開設 平成4年4月

○入所は、リハビリテーションや看護・介護を必要とする要介護者(要介護認定1～5の認定を受けている人)が利用でき、通所リハビリテーションは、医師がリハビリテーションを必要とすると認めた要支援1以上の認定を受けている人が利用できる。



◎グループホーム カトレア（社会福祉法人宝生会）

- 所在地 宇都宮市星が丘1丁目1番28号
- 規模 入所定員18名
- 開設 平成16年4月
- 介護保険証の要支援2以上の認定を受け、軽・中度の認知症状態にあり、以下に該当する方がご利用いただけます。
 - ①家庭環境や居住環境等から、居宅での生活が困難な方
 - ②概ね身の自立が保たれており、見守りや部分的な介助により共同生活を送ることに支障のない方

70年の歴史

残念ながら、昭和13年当時の沼尾医院をしのばせる写真は残っていません。現在の、駐車場のバス停付近に建っていました。



昭和37年当時の病院



昭和50年当時の病院正面。昭和56年には駐車場を拡張して、増改築しました。

現在の病院の写真



1F病棟



2F病棟



3F病棟



新館病棟



第1ホール



玄関ロビー

70年のあゆみ

- ▶2008・平成20年：北京五輪 チベット騒乱
- ▶2007・平成19年：防衛「省」に昇格
- ▶2006・平成18年：トリノ冬季五輪で荒川静香が金、WBCで王ジャパン世界一
- ▶2004・平成16年：新1万円、5千円、千円札発行、アテネ五輪
- ▶2003・平成15年：欧州通貨統一（ユーロ）
- ▶2002・平成14年：日本郵政公社発足
- ▶2001・平成13年：米国同時多発テロ事件
- ▶2000・平成12年：有珠山噴火 シドニー五輪
- ▶1998・平成10年：長野オリンピック
- ▶1997・平成9年：臓器移植法成立 介護保険法成立
- ▶1995・平成7年：阪神淡路大震災、地下鉄サリン
- ▶1989・平成元年：株価暴落バブル経済終焉
- ▶1989・平成元年：消費税導入
- ▶1989・昭和64年：昭和天皇崩御
- ▶1982・昭和57年：老人保健法成立
- ▶1970・昭和45年
：日本万国博覧会（大阪）
- ▶1968・昭和43年：小笠原返還
- ▶1964・昭和39年
：東海道新幹線、
東京オリンピック
- ▶1945・昭和20年
：太平洋戦争終戦
- ◆2001・一般病床
- ◆2000・平成
居宅介護支援
ヘルパーステ
- ◆1998・平成10年
在宅介護センター「き
- ◆1997・平成9年
古谷耕資郎 第3代院長
- ◆1996・平成8年
訪問介護ステーション「星が丘」
- ◆1995・平成7年
在宅医療部新看護および療養型病床
- ◆1987・昭和62年
名誉院長 沼尾義精死去
- ◆1982・昭和57年
沼尾嘉時 第2代院長
- ◆1981・昭和56年
現病棟落成
沼尾嘉時 第2代理事長
- ◆1968・昭和43年
特定医療法人認可
- ◆1951・昭和26年
医療法人社団洋精会 沼尾病院となる
- ◆1938・昭和13年
沼尾医院開業 初代院長・理事長 沼尾義精

◆2006・平成18年

医療法人社団洋精会第3代理事長 沼尾成美就任

医療法人社団洋精会理事長 沼尾嘉時死去

地域包括支援センターきよすみ開設

ケア工房「野の花」開設（居宅介護支援事業者）

◆2003・平成15年

新病棟一階部分改修工事

介護療養型医療施設50床、医療保険適用療養病床50床に変更

医療法人社団洋精会沼尾病院 通所リハビリテーション開設

◆2002・平成14年

一般病床18床、医療療養病床34床、介護療養病床48床に変更

平成13年

40床、療養病床60床に変更

12年

事業者開設

一シヨンぬまお開設

よすみ」併設

、ぬまお内科併設

群

▶2008・平成20年

：北関東道路

宇都宮-真岡間開通

▶2007・平成19年

：栃木県庁新庁舎完成

▶2002・平成14年：完全学校週5日制開始

▶2000・平成12年：介護保険制度が開始

▶1999・平成11年：とちぎテレビが開局

▶1997・平成9年：宇都宮美術館が開館

▶1996・平成8年：市制・百周年を迎える

▶1995・平成7年

：第10回国民文化祭とちぎ95の開催

▶1994・平成6年：F M栃木が開局

▶1993・平成5年

：全国高等学校総合体育大会の開催

▶1992・平成4年：宇都宮ケーブルテレビが開局

▶1984・昭和59年：とちぎ博開幕

▶1980・昭和55年：栃の葉国体

▶1973・昭和48年：獨協医科大学開学

▶1972・昭和47年：県立美術館開館、自治医科大学開学

▶1965・昭和40年：金精道路、第二いろは坂開通

▶1954・昭和29年：第一いろは坂開通

▶1945・昭和20年：7月12日 宇都宮空襲

高齢者への医療



沼尾病院 院長
古谷 耕資郎

高齢者が病気になると、老化による体力の低下もあって、治る期間が長くなり、合併症を生じやすくなります。したがって、治療終了の判定が大変困難で、再発を繰り返すことも多く、若い年代の病気にくらべて、手間と時間がかかります。

入院して、治療により回復して退院する、という単純な経過をとる高齢者は少なく、高率に後遺症を残して病後の介護が必要になることも多く、いずれ不定期に再発し、入退院を繰り返すやすくなります。利用者の家族は、たとえ病気が治った、と医師から告げられても、要介護状態が進み、再発や合併症について不安になり、さまざまな病院や施設、あるいは自宅と病院への入退所を繰り返すという環境の変化を少なくしたいものです。したがって、高齢者の病気の特徴や家族状況をよく理解した医療関係者の管理のもとでこそ、高齢者が安定した精神状態を保ち、病気の再発に迅速に対応できるのです。理想的には自宅で療養できるほうがいいのですが、核家族化が進み、加えて最近の不況によって世帯の収入が減少し、さらに最近のように諸物価が高騰しては、高齢者を家庭で看ることができる方は今後どんどん減っていくことでしょう。医療管理の下で長期に療養できれば、病気を抱えた高齢者のみならず家族も安心だと思います。

沼尾病院では、全ベッドが療養病床です。病気にかかった高齢者や要介護状態であって医療管理が必要な高齢者が安心して長期療養ができる病院づくりを目指しております。高度な専門医

療までは行えませんが、高齢者の身体に負担をかけない医療を提供して治療と療養ができます。

病床は、50床は、酸素療法や吸引を必要とする利用者が主に療養する病床で、残り50床は、要介護度が高く、医療処置が必要であったり、再発や悪化が心配される利用者が中心の介護療養病床とに分けられます。すべての病棟では、見守りがいらずに歩行可能な方はひとりもいらっしゃいません。

高齢者を抱える病院に関する某調査資料の評価の中に、「病状が落ち着いているのに入院している」という結論がありました。これは見当違いで、入院しているから病状が落ち着いている人をたまたまカウントしたのではないかと考えております。

利用者は、他の施設からの転院で入院する方が多いのですが、外来や協力関係施設からの緊急入院もあり、療養病床とはいえ、さまざまな病気がみられます。

加齢と共に、健康と病気は分けにくくなります。医療の成果を治療だけと決め付けることはできません。医療はその過程において病気にともなう苦痛が緩和されることが大切なことで、治療はその緩和から自然にもたらされるものです。それには相応の時間がかかるのですが、現行の保険制度ではその余裕がなく、近視眼的な治療で区切るために、高齢者には厳しいものになっています。

保険制度の改革の一環として、2012年に介護保険適用の療養病床は全廃されます。高齢者の長期療養に関する医療管理を近視眼的に不要とした結果です。

本院といたしましては、病院の体制を見直して、現行の医療保険で可能なかぎり、これまで通り高齢者が医療管理のもとで療養ができる病院づくりをめざしていきます。

沼尾病院創立70周年を祝って



沼尾病院 副院長
池之内 力

沼尾病院創立70周年おめでとうございます。私が医師になってまだ25年ですから、70年と言う月日には様々な人々の経験と実績が積み重なり、今という繁栄があるものと思います。現在医療の世界では病院の医師が減少し、医療の崩壊が叫ばれています。そして地域医療ばかりでなく、高齢者医療も危機に直面しています。高齢者は一人で種々の病気があるため、医師の専門性以上に総合的に診られるいわゆる総合医の存在が必要とされてきており、全国各地で総合診療科の標榜が始まっています。

沼尾病院は、前理事長の沼尾嘉時先生が早くから高齢者のための今の沼尾病院をはじめ、訪問系サービス、通所系サービス、さらに老人保健施設白楽園、特別養護老人ホーム敬祥苑、グループホームカトレアを始めました。病院近隣ばかりでなく、宇都宮の広い地域の方々から信頼され、親切な良い総合的医療、介護サービスを提供しています。

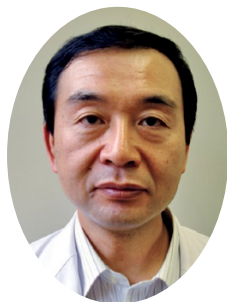
私が医師になって25年、沼尾病院に来てから早や13年が経ちますが、この紙面を借りて自分自身を振り返って見たいと思います。自治医大を卒業し大学で2年間多科ローテーション研修を行い、大田原赤十字病院で3年間慶応大学病院の先生方に指導を受け、その後、外科専門医を取得しました。さらに2年間、僻地の湯西川診療所にて24時間地域のために勤務し、次に公立病院の那須南病院の新規立ち上げに関与し、病院各部門の立ち上げや外科から内科さ

らに救急まで幅広い診療経験を5年間しました。今になって思いますが、色々な形態の医療現場を経験できたことは、その後の医師として総合的な幅広い診療ができるようになった礎になっています。ちょうど其の頃、高齢化の波で外科の分野でも高齢者の手術が多くなり、自然と高齢者を診療することがあたりまえになっていました。そして、高齢者の診療は大変奥深く、表面的な診療ではとても良い医療は出来ない事を痛感しました。自治医大で同級生である古谷院長先生との縁もあり、沼尾先生の人柄と沼尾病院の理念に共感し現在に至っております。

一方自分の私生活を振り返って見ますと、ちょうど私も50歳になって親も80歳を超えると、歳をとるということはどういう事かが患者さんを通してよくわかります。自分の息子たちも親の背中を見る様になり、いずれ独り立ちし親を乗り越えていきます。親は小さく静かにしているのが最良と思えるようになってきました。当院を利用している高齢者の方々も、同じような思いをされて、りっぱに子供さんたちを育て上げたことと思います。自分自身も歳をとることで、より高齢者の患者さんにやさしくなれてきたように思うこの頃です。

最後に沼尾病院は、高齢者を総合的に診られる経験豊かな医師と、心豊かな思いやりのある看護師さん、やさしい頑張りやの介護士さんたちがいる職場だと思います。当院を利用されている患者さんはじめ御家族も、長年病気や介護と向き合われていた方が多く、当院の職員ともその苦労を理解し、分かち合えるようになっていっていると思います。今後とも私も職員に支えられながら、より良い医療、介護が提供できるようにしたいと思います。また、職員にも働きやすい職場でありたいと願っています。よろしくお願い致します。

沼尾病院の展望



沼尾病院診療部長
内科 並木 賢司

平成13年4月から、当院にお世話になっています。当時の病棟は、一般病床40床、医療療養病床60床でした。一般病床は、主に急性期の疾患を扱い、医療療養病床は慢性期の疾患を扱います。しかしながら、当院では共に長期入院が必要な患者がほとんどでした。

平成12年の介護保険開始に伴い、新たに介護保険の対象となる介護療養病床が創設されていました。当院では、平成14年7月に一般病床18床、医療療養病床34床、介護療養病床48床を経て、平成15年4月からは、医療療養病床50床、介護療養病床50床となり、現在に至っております。

一般病床を廃止し、全館療養病床に転換することにより、長期療養の必要な患者の医療に専念することになりました。その結果、平成12年には81%であった病床稼働率が、平成15年には91%となりました。以後も増減はありますが、80%台後半で推移しています。

しかしながら、この数年間、老人医療に関する環境は医療費の抑制のために、厳しくなる一方です。平成18年2月の医療制度改革関連法案により、13万床ある介護療養病床は平成23年度末までに全廃され、また25万床ある医療療養病床が15万床まで削減されることが、決定されました。また医療療養病床では、医療の必要度によって患者を3区分に分け、低い患者の診療報酬が18年7月から大幅に減額されることになりました。

この頃、病状が徐々に悪化していた前理事長沼尾嘉時先生は、心身共におつらそうでした。そのような状態でも、目の前の問題に対し積極的に対応なさいました。医療区分2となる、頻回に喀痰吸引が必要な患者に対応するために、1階病棟18床に新たに吸引設備を備えました。平成18年7月より、予定通り医療療養病床の3区分化が実施されました。試算では、医療区分2,3合計が70%を超えれば増収となります。開始後の数か月は50%を كانواじて超える状態でしたが、約半年後には70%をほぼ毎月越すことができました。医療が必要な患者の割合が増すわけですから、看護師及び介護士の負担が増しました。

平成18年10月30日、沼尾嘉時先生がご逝去なさいました。職員の悲しみはいうまでもないことですが、同時に理事長亡き後の病院に対する不安が一部に出現しました。それに加え、平成18年4月の診療報酬改定により、一般病院で新たに7対1の看護師配置基準が設定された結果、大病院の看護師募集に拍車がかかり、当院にも影響がありました。医療区分2,3の患者増による負担増に加え、人員が不足し、残った職員の負担が増す、その結果さらに退職者が生じる、という悪循環を生じつつありました。

このような状況下に、沼尾成美新理事長が就任なさいました。前理事長のご遺志を継承しつつ、厳しい現実に対応なされた結果、平成19年度も前年とほぼ同様の実績を達成でき、我々同様あるいはそれ以上に、ご安心なされたと推察致します。

平成24年に廃止となる介護療養病床問題にどの様に対応するか、という大きな課題が残されています。職員一同真剣に対応したいと思います。関係各位のご指導、ご鞭撻、ご協力、よろしくお願い致します。

岡 宗男医師の紹介 ～沼尾病院 医局より～



沼尾病院内科医師

岡 宗男

2008年6月2日から、非常勤医師として、岡宗男先生が沼尾病院に赴任されました。

先生は、日光のご出身で獨協医科大学をご卒業後、内分泌内科を専攻し、医学博士号を取得されました。ご専門は糖尿病、甲状腺疾患ですが、介護および福祉の分野にも明るく、医療および福祉を総合的に提供していく当法人にとって、大きな力となってくださいます。

勤務は、週4日間ですが、病棟診療、一般の外来診療、訪問診察、サテライト診療所である「ぬまお内科」での診療も担当するなど、多くの利用者の皆さんに接することになります。

2008年6月9日から、池之内 力先生が当院の姉妹施設である「白楽園」の管理者に赴任し、病院の診療から一時はずれますので、その後を岡先生が引き継ぎます。

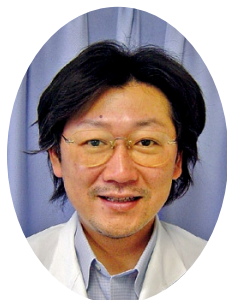
外科の利用者については、「総合診療」として、小外科、外科診断を行い、手術適応がある方は専門施設に紹介することになります。



沼尾病院創立70周年を記念して

沼尾病院外来医師

瀬尾 弘司



医療法人社団 洋精会が設立70周年を迎えられましたこと、心からお祝い申し上げます。

貴医療法人は、初代の理事長先生が肛門科として地域医療に多大なる貢献をされ、先代の理事長先生が高齢者医療、介護の分野におかれまして医療、福祉共々ご活躍され、現理事長先生に引き継がれております。この間に、病院に携わられた皆様のご尽力に対し深く敬意と感謝を申し上げる次第であります。

さて私は、約10年前より診療に携わらせていただき、地域医療を勉強させていただいております。先代の理事長で在られた沼尾嘉時先生と専門分野（心臓や高血圧）が同じであったこともあり心臓に関する検査等のご指導を賜り、研鑽を積ませていただいているところでございます。

記念誌の発刊の機会に、本年4月より高齢者に対する医療制度の見直しがなされましたので高齢者医療の現状を記したいと思います。高齢者人口の推移として2015年には第一次ベビーブーム世代の方々が高齢者の仲間入りをし、2025年には後期高齢者（75歳以上）になるとされており、全体としての高齢者人口は約3500万人と推測されています。高齢者の疾病の特徴としては、様々な病気を持ち合わせ、症状の出現がまちまちで、慢性化しやすく、物忘れや、不穏などの精神神経症状や、合併症を併発しやすく、薬の副作用がやすいなどがあげられます。高齢者によく見られる症状としては、めまい、息切れ、不眠、転倒、腰痛、関節痛、物忘れ、むくみなどがあります。更に日常生活における活動度合いを低下させる要因として、床ずれや、筋力の低下、失禁、うつ状態、誤嚥などがあり、これらは後期高齢者に急増する兆候といえます。

近年注目されているメタボリック症候群は、内臓

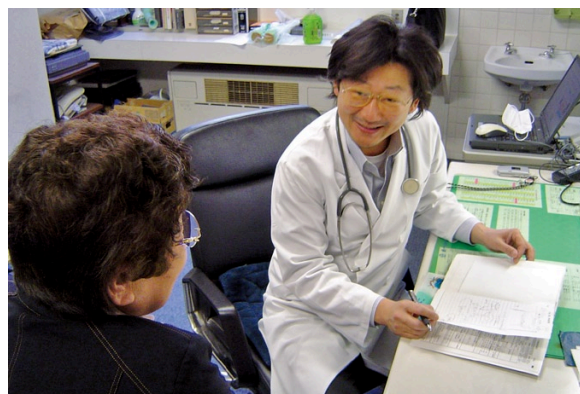
脂肪の蓄積による肥満が、脳卒中や心筋梗塞の危険因子である高血圧や、高脂血症、糖尿病などを助長するとされています。これとは別に高齢者の栄養不良による“やせ”は、生命予後を悪化させる、つまり短命の要因のひとつであるとされています。

次に、日本における死亡場所の推移をみると約50年前までは、自宅での死亡が約8割でした。ところが1970年代以後病院などの医療機関での死亡が増加し、自宅での死亡を逆転し、現在では約8割が医療機関での死亡となっています。そこで在宅医療の役割を考えると、高齢者の方ができる限り住み慣れた家庭や地域で療養しながら生活を送れるよう、身近な人に囲まれて在宅での最後を迎えることも選択できるような制度が必要とされ、かかりつけ医の重要性が注目されています。

今後、終末期の医療として緩和ケアを在宅で行うには、医療と福祉の連携が必須です。

“緩和ケアとは、救命できない病気の患者に対する、全人的・精神的なケアである。痛みその他の症状の緩和と心理的・社会的・精神的問題の解決を図る。目標は患者と家族のQOL（生活の質）の向上である。緩和ケアは自然死の過程を大切にし、延命も安楽死も勧めない。痛みや苦しみを和らげ、心理的・精神的ケア技術を駆使し、患者が死の直前まで生き生きと過ごし、家族の介護負担と死別の苦しみを和らげるよう尽くすものである”とWHO（世界保健機関）で定義されています。つまり、“その人らしく生き、尊厳を守る医療の提供”を心がけることが大切であると思われます。

最後に、記念すべき設立70周年を契機に、貴医療法人がますますご繁栄されることを心からお祈り申し上げまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



外来の紹介

看護部 看護師 石塚 ム女子

当院外来の始まりは、昭和13年に遡ります。肛門外科外来として開設されました。時の流れと共に診療科も変遷し、現在では内科、外科、皮膚科となっています。

外来での検査は、原則として日帰りで行っています。

皆様によく知られている検査は、上部消化管内視鏡検査（胃カメラ）です。胃癌の早期発見、胃潰瘍、十二指腸潰瘍の診断に威力を発揮します。

腹部超音波検査は、簡単に、苦痛なしに行えます。プローブと呼ばれる小さな機械を腹部に当てるだけで、肝臓、胆嚢、脾臓、膵臓、腎臓等が観察され、診断に役立ちます。

腹部超音波検査装置には、心臓超音波検査も備えられています。心臓の動き、心臓弁の異常等が観察されます。主に非常勤の瀬尾先生が使用しています。



内視鏡検査の様子



待合室風景

その他、頭部CT、腹部CT、単純X線等の放射線検査、心電図、血液検査等が外来で行われています。ほとんどの検査結果は、当日のうちに患者さんに説明されます。

外来にいらっしゃるのには、患者さんだけではなく、職場検診、健康診断の方もご利用なさいます。さまざまな方に、気楽に相談して頂ける様、心がけています。

一人一人の患者さんの健康状態に、医師とは異なる観点で、気を配りたいと考えています。そのためには、日々変化する医療の情報収集をし、少しでも患者さんのニーズに答えられる様、見聞を広げる努力が必要だと思います。生命を扱う看護師の職業に誇りを持ちつつ、今後も外来業務に臨みたいと考えています。引き続き、皆様のご指導、よろしくお願い致します。



高橋技師によるマッサージにも多くの患者様が診療に訪れます。



受付は薬局窓口と隣合わせにして、会計とお薬の引渡し効率的に行なわれます。また、平成19年に行ないました院内改修により、きれいで明るい受付になりました。

入院病棟の紹介

創立70周年記念誌発行に寄せて



看護部 師長 藤田 育子

沼尾病院創立70周年おめでとうございます。一言感想を述べさせていただきます。私が初めて病院を見学させていただいた時の感想としては、建物がとても古いわりには（一寸失礼ですが）廊下等の清掃が行き届いていて、とても清潔な印象を受けたことを覚えております。石堂看護部長もお元気で、良かったら見学だけでも来て見たらとのお誘いに、見学に来たのにナースシューズのサイズは、と聞かれて思わず24cmですと答えてしまったことを昨日の様に思い出します。それからの私の毎日は、部長さんに少しでも近づこう、根拠を持った看護をしようと必死でした。名札を付けて堂々と、この言葉も胸に刻まれています。摂食の勉強会や口腔リハビリへの取り組み等、初めて経験することもあり

ました。高齢の患者様が多く、褥瘡や嚥下性肺炎等のリスクにさらされている患者様の看護に対し、常に先見の明を持たれていることに尊敬の念を持たずにはいられませんでした。部長さんの築いたこの沼尾病院での看護の質（レベル）を落とさないよう、スタッフ全員で一丸となって頑張っています。私はもの心ついた頃から看護師になりたい、なるんだと思っていました。叔母が病院に勤めていた関係で病院に行くことがあり、病院の消毒の臭いが大好きでした。希望通り看護師になり色々なことがあっても、白衣を着ていれば我慢できる、白衣を着ていれば幸福と思い今まで過ごして来ました。看護師生活も終盤に差しかかり、沼尾病院で元気に働いていられることを、とても感謝しています。地域住民の方々の為にもこの先80周年、90周年と続いていくことを心より祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。



医療療養病棟スタッフ



毎朝の回診の様子。一人一人の入院患者様、御家族様と十分にコミュニケーションを取りながら、診察をおこないます。

沼尾病院での思い出



看護部 師長 田寄 歩美

外科系の病棟で5年半勤

務後退職し、私が沼尾病院に入職したのは平成4年4月のことでした。面接の日には「何も心配しないで、安心して来てください。」と温かい言葉をかけていただき、とてもうれしかったことを今でも覚えています。私にとってはこの一言がとても心に残り、ここでもう一度頑張ってみようかなという気持ちになりました。

沼尾病院の第一印象は、正面玄関からは想像がつかないくらい建物の奥が深いなということでした。入職してみると驚きの連続で、古い病室には畳のベッドや押入れがあり、電気はひもを引いて点けるなど病室というよりは自宅を思わせる雰囲気がありました。また、病棟内には学生寮があり、入り口を開けたままにしておくと、いつの間にか野良猫が入り込み廊下を走っている姿を目にすることもありました。木造の古い病棟は昼間でも薄暗くて見るからに恐ろしく、初めての夜勤では廊下を歩く自分の足音にもドキッとするような恐怖と緊張感がありました。職種を問わず職員全員がとても仲が良く、家庭的な温かい雰囲気の中で私はとても穏やかな気持ちで仕事に取り組むことができました。

平成7年には故、石堂看護部長が入職され、看護部は大きく



食事は患者様とコミュニケーションと取りながら楽しくいただきます。また、体調の変化等も細かく観察します。



介護療養病棟スタッフ

変貌しました。石堂部長はまず看護部の組織づくりから始められ、委員会の立ち上げ、職員の意識改革・教育など様々なことに取り組まれました。もちろん私の穏やかな生活が一変したのは言うまでもありません。私は特に教育の面を指導していただき、院内教育がいかに重要か、教育を企画する上では机上の勉強ばかりでなく、ビデオ鑑賞や実技の勉強会なども組み入れ、興味を持って参加できるように工夫することも大切であることを学びました。今では石堂部長の厳しくも温かい?ご指導のおかげで少しずつではありますが院内研修会を実践できるようになりました。教育の面だけでなく前病院では経験できなかった本当にたくさんのことをこれまでに経験でき、これも石堂部長に尻を叩かれながら指導していただいたおかげだと今では素直に感謝しています。

沼尾病院に入職して早いもので今年で16年目を迎えることができました。3月からは介護保険が導入されて初めて介護療養病棟に勤務することになり、医療療養病棟とはまた違った難しさがあることを日々痛感しています。まだまだ勉強が山積みの毎日ですが、患者さんやご家族に安心して任せていただだけ、元気を与えられるような職員でありたいと思っています。今後ともご指導よろしくお願い致します。

未来予想図



レントゲン室

放射線技師 井上 英夫

近頃の音楽CDはカバーアルバムも売れているようで、特に徳永英明のボーカリストシリーズがベストセラーになり女性を中心に魅了しているようです。

御多分にもれず、私の家人も休みの日には家事を行いながら聞きほれています。

狭い家では当然のように、私の耳にも流れている曲が飛び入ってきます。CDに入っている曲は何年、何十年まえに流行したものばかりで、それなりに聞き覚えがあり、つつい聞き入ってしまいます。その中でドリカムの「未来予想図Ⅱ」が気に入ってしまいました。歌詞の内容は、カップルの他愛無い日常を表したもので、ハッピーエンドに進んでいく恋を感じ取ることができ、結婚式でも良く歌われているようです。歌詞内容とは程遠い私の短い青春時代では、車のブレーキランプを5回点滅したり、二人乗りでバイクのメットを5回ぶつかけたりして「ア・イ・シ・テ・ル」と表現することは、思いも着かないようなほほえましい光景です。自分も同じことをやってみたかったと思うが、女友達とは無縁の時期でポンコツのバイクを彼女代わり乗り回していました。今思い出すと、つまらない青年期を

過ごしたものだと思っている。

さて、私の仕事の領域である放射線診療では、急激なデジタル化の波が押し寄せている。CT、MRIは最初からデジタルで始まったが、血管撮影、透視撮影、一般撮影まで進み、PACSが普及してフィルムレス診断が一般化してきた。特にCTは多検出器化が著しく、東芝では320列、0.5mm厚で16cm幅を撮影する最新機種が発表された。主に心臓で使用され、1回の撮影で検査が済んでしまう。導入を促すのは当の放射線科ではなく、侵襲性の高い心カテ検査を減少させたい循環器科で、装置が高額なので導入は大病院に限られてしまうのが難点。MRI装置も技術の進歩が激しく、高分解能、短時間撮影が進んでいる、放射線被ばくの心配が無いので将来はCT並みに普及するかもしれない。さらに現在のX線機器は連続波長X線を用いているが、将来的には単色のX線を出す装置が出現して、空間分解能が格段に向上し、放射線被ばくも減少可能になるだろう。私が現役をリタイアしてからの未来予想です。

沼尾病院は診療を70年も続け通して来ています。地域の人々から信頼を得続けてきた結果でしょう。この激しい時代変革の中で、変化を受け入れながらも安定して診療を続け通してきたことは、職員にとっても将来の生活の保障を担保出来る頼もしい存在の病院です。これからもずっと、将来に向かって安定して診療が続けられるように、病院が変わらないように、未来予想図を描きながら残り5年の勤務を励んでみようと思います。



東芝製全身用X線CT装置「アステオン」頭部はもちろん、胸部、腹部まで0.75秒のヘリカルスキャンで短時間撮影できます。1回の息止めで撮影できるので、呼吸によるブレがありません。



CTにて頭部の撮影中です。



一般撮影室でストレッチャ上での胸部X線の撮影中です。この部屋では胸部、腹部、骨、尿路系の造影撮影のほか多岐にわたる撮影が行えます。



回診用X線装置を用いて病室での胸部撮影を行っています。重症の患者様で病室から出られない場合や手術室での撮影を行います。技師は被爆防止のプロテクターを着用します。

薬局紹介



薬剤師 小堀 久美子

現在薬剤部は常勤薬剤師1名と非常勤薬剤師3名で毎日の業務を行っています。

私は沼尾病院に勤務して10年目に入りましたが、月日ばかりがすぎていく中で、肝心な薬剤師としての力はまだまだですが、自分なりに頑張っていくつもりです。

業務内容は外来調剤、入院患者様を対象とした調剤、注射薬セット、DI業務、医薬品在庫管理、発注業務、院内感染対策業務、医療事故対策業務、褥瘡対策業務、等多岐にわたっています。

在宅及び外来患者さんは、高齢化の為薬の飲

み方に不安を感じている多剤服用の方、あるいは一人暮らしの高齢の方には、たとえ一剤でも処方された薬が確実に服用できるように一包化してお渡ししています。

入院患者さんの中には、常食を摂れずペースト状の食事の方もいらっしゃいます、この場合研磨して服用し易い形で提供する等、いろいろ工夫しそれぞれの患者さんに合った調剤をいつも心がけています。

また処方箋から見る患者像ばかりでなく、患者さんと面と向かい合う事、限られた時間の中できちんと服薬指導をすること、調剤に追われて患者さんとのコミュニケーションがとれず、納得いく本来の医療サービスが疎かになっていないか、自問自答しながらの毎日です。

患者さんが「そうだ、沼尾病院の薬局の人に聞いてみよう。」と、思えるような薬剤師を目指し、医師、看護師、事務職員と密接に連携をとりながら、よりよい医療を求め日々努力しています。



患者様の疑問や不安には、いつも笑顔で対応しています。



薬局スタッフ 大澤薬剤師



薬局スタッフ 斉藤薬剤師（左）



薬局スタッフ 左より奥田薬剤師、小堀薬剤師

検査室

今 検査室では



臨床検査技師 杉本 恵子

最近、「未病」・「メタボリックシンドローム」という言葉をよく耳にしますが、未病の定義は「検査結果には異常があるが自覚症状はない」ということです。この定義に基づけば、メタボリックシンドロームも大半が未病です。それだけに、この時期に状態を改善できれば病気にならないであろうと考えられます。

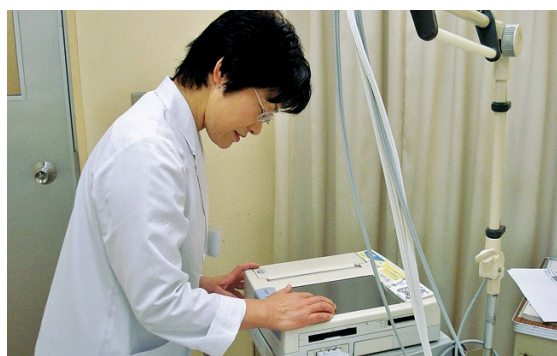
当院2階検査室では、現在、患者さんから採取した血液、尿や便等の検体を分析して、糖尿病や脂質代謝、肝・腎機能、貧血など病気の指標を検査する検体検査をしたり、心電図や肺機能検査など患者さんと直接接して検査する生理機能検査を

行っています。

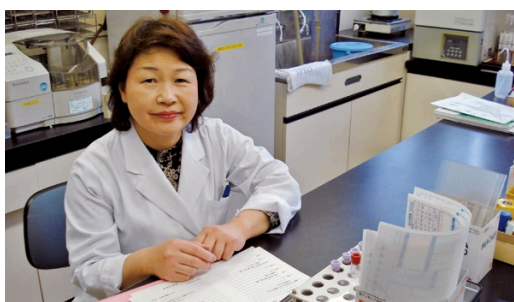
従来、当院の検体検査は、一般的な日常検査項目を院内で実施し、特殊項目や培養検査を外部検査センターに依頼していましたが、平成19年4月から、データ管理の徹底と経費削減のため、至急検体のみ院内で実施し、その他は検査センターに依頼する体制に変更しました。午前中の検体も当日午後日常検査項目の結果が報告される検査システムを採用しましたので、この結果、病態把握に迅速に対応でき、報告書も以前より見やすくなっています。検査結果をお持ちになりたい方は、遠慮なく外来受診の際先生に声をかけてください。

心電図や肺機能検査等の生理機能検査は、患者さん本人と接する数少ない機会ですが、コミュニケーションを深めて病態把握に努めています。

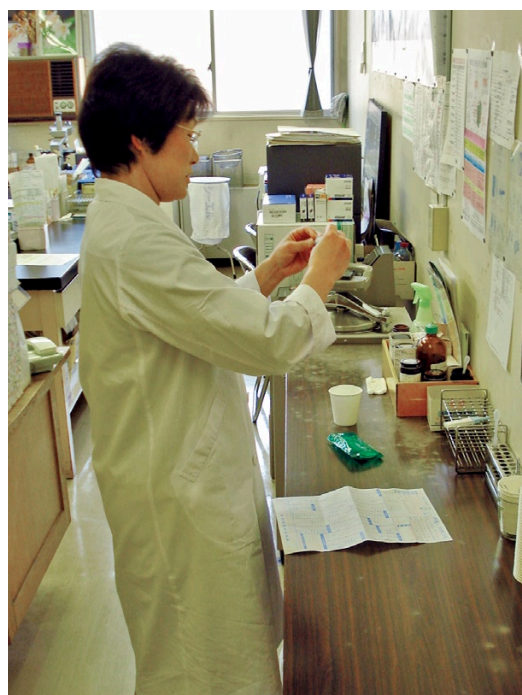
なによりも「自分の健康は自分で守る」という意識を高めることが大切だと思います。検査室では、少しでも意識向上に役立てるため、今後も診断の補助として検査を迅速・正確性に努めていきたいと思っています。



心電図検査



渡部検査技師 長期にわたり勤務し、平成19年に定年退職となりましたが、その後も、お手伝いいただいております。



平成19年より多くの検査項目を外部委託にしましたが、至急の検査は院内で実施しています。

事務室

創立70周年を迎えることが出来ました



沼尾病院事務長 吉川 洋

お陰様を持ちまして医療法人社団洋精会が創立70周年を迎える事が出来ました。

これも一重に皆様の日頃のご理解、ご協力の賜物と厚く御礼申し上げます。

私が生まれたのは1953年ですが、その2年も前に医療法人社団洋精会 沼尾病院は沼尾医院から法人格を有する病院となっていた訳です。その事を考えるとつくづく歴史の重みを感じさせられますし初代沼尾義精先生の偉大さに敬服致します。平成9年6月に沼尾病院に入職以来早いもので11年が経過しようとしております。この間故沼尾嘉時理事長の示した医療法人社団洋精会沼尾病院運営方針に基づきご案内の通り様々な事業を展開して参りました。昨年は事業の展開ではありませんが沼尾病院運営方針の5患者・利用者サービスに関する6つのキーワードの(1)美 キレイ、清潔、院内感染防止の一環として病棟を中心としたリフォーム工事行いました。築25年を経過する歴史のある建物ですので老朽化は否ませんが各階の病室のドアも塗り分け、各階廊下

壁の塗装、トイレ等のバリアフリー化また1階ロビーの床工事も実施し大分綺麗になりました。今後も患者・利用者様のために院内の整備を進めて行く所存でございますのでお気付きの点がございましたら何なりとお申し付け下さい。

又、今後益々激変する医療情勢の中、医療法人社団洋精会沼尾病院のために故沼尾嘉時理事長が残され経営理念(以下)に基づき精進しながら沼尾成美理事長の下、病院発展のために微力ながら貢献していく所存でございますので相も変らぬご指導、ご鞭撻の程、宜しく願い申し上げます。

医療法人社団洋精会沼尾病院経営理念

1. 当法人は保健・医療・福祉の分野で社会へ貢献するという使命を持った非営利的組織であるが、事業の継続・発展のために適切な利益を確保する。
2. 地域におけるオンリーワンの病院を追求する。
3. 徹底した患者、利用者志向Omsorg（オムソーリ=人間愛）の精神のもと、患者、利用者とバランスのとれた人間関係を築き、安心され信頼され喜ばれる病院づくりを追求する。



事務室スタッフ 前列左より 福田、橋本
後列 左より 大塚、福富、吉川事務長、菊地、高橋



吉川事務長



外来の患者様には古くから通院していただいている方も多く、家庭的な雰囲気の受付となっております。



事務室では事務処理の他、患者様、利用者様への対応や、行政、各業者、外部機関との連携なども行なっております。

手術室・中央材料室



中央材料室 稲垣



院内で使用する、器具や物品の消毒や、タオルなどの洗濯などをおこなっております。



手術室

病棟とは別換気にして衛生的に保たれています。全身麻酔の設備も整っており、不測の事態に備えています。

売 店



売店

入院生活に必要な物品を販売しております。販売していないものに関しましては要望により個別に仕入れ、販売もおこなっています。

保 清



院内は土足禁止とし、外部からの雑菌やほこりを持ち込まないようにしていますが、それでも汚れる廊下や病室を毎日の清掃で清潔に保っています。

通所リハビリテーション

リハビリテーション



理学療法士 湯浅 英貴

平成15年11月より洋精会の新たな事業として通所リハビリテーションを開所致しました。当初1日3～4名程度でしたが、現在では1日に20名を越え、利用者は約100名の方々が御利用になっています。依頼は市内のあらゆる場所から来ている状況です。

当施設では午前中に集団での運動を数グループに分かれて行なっております。利用者様からの掛け声や元気に運動を行なっている光景は圧巻です。午後には入浴日と入浴なしの日があり、入浴日には入浴サービスを、ない日には様々な活動を利用者様に主体性を持って行なっていただいております。またレクリエーションでは利用者様同士の対決を真剣になって行い歓声や悲鳴など1日を通して賑やかに利用者様は過ごされております。

通所には様々な職種のスタッフが勤務しております。安全に送迎をする為の送迎運転手。運転手の助手から施設内での利用者の活動の介助や、手工芸やレクリエーションの企画立案までをこなす介護スタッフ。体調の変化などを把握し、リハスタッフや医師、家族と連携を図る看護師。様々な外部との連携を図り利用者の事を把握する相談員。レセプトを行なう事務職員。ほんとに多くの職種とスタッ

フ数によって通所リハビリテーションは支えられております。

その中でリハスタッフが個別的にリハビリテーションを行なっており、残された機能を最大限に利用する方法を指導させていただいております。また、地域に積極的にリハビリテーションスタッフが係われる様に洋精会の中で連携を図りご自宅でのリハビリテーションを行なわせていただいております。今後、リハビリテーションスタッフには訪問看護と共に沼尾病院における訪問リハビリテーションを積極的行なっていき、家で過ごされていてもリハビリテーションが必要な方々に我々リハビリスタッフがより係わっていける様に展開していきたいと思っております。

通所リハビリテーションはまだまだ洋精会としては新しい事業であり今後も利用者の為にスタッフが一段となって更なる発展が行える様に精進していきたいと考えております。



通所リハビリテーション入口



利用者ロッカー、奥には畳のスペース。手前に浴室とトイレがあります。



通常の浴槽に加え、椅子に座った状態で入浴のできるチェアインバスも設置しています。



畳コーナーはリハビリやサービス利用中の休憩、お昼寝に使用します。



送迎車

栄養課

沼尾病院 栄養課での10年



管理栄養士 長岡 広美

70周年にあたり栄養課に関わる過去10年の出来事を振り返ってみました。

平成10年4月	給食運営方式を直営から委託へ変更（日清医療食品）	平成15年2月	沼尾病院厨房内（日清医療食品）ISO9001取得
平成11年3月	献立・帳票用パソコン導入（日清医療食品）	平成15年5月	健康増進法施行（栄養改善法から一部改正）
平成11年5月	在宅訪問栄養食事指導開始	平成15年11月	通所リハビリ開設 初日のおやつは紅白まんじゅう 手作りのおやつが特に好評
平成12年7月	雪印製品使用打ち切り	平成16年4月	訪問栄養食事指導 外部より依頼を受ける
平成12年8月	沼尾病院職員健康教室実施（20名参加）	平成17年1月	ノロウイルス流行
平成13年3月	在宅総合センター立上げに伴い配食サービス検討 外来患者さん等へアンケート実施 医療法人での実施前例なく許可下りず見送る	平成17年8月	保温食器を新調する 給食が「明るくなった」と患者さんより好評
平成13年4月	外部ヘルパー事業所へ講師として招かれる 「介護者の栄養管理」などをお話する	平成17年10月	介護保険法改正 栄養ケア・マネジメント開始
平成13年10月	BSE問題により牛肉使用自粛	平成17年11月	ソフト食導入（日清医療 ムース食採用）
平成14年8月	宇都宮市内の病院でO157食中毒事件発生	平成18年4月	診療報酬改定 栄養管理実施加算新設
平成14年10月	宇都宮市保健所「病院給食施設一斉立入調査」	平成20年2月	毒物混入ギョーザ事件
		平成20年3月	中国輸出検疫強化で日本向け食品の輸出停滞

10年間委託の業者を変更せず給食業務を行い、栄養管理をしてきました。院内、外来、在宅そして通所とさまざまな患者さん、利用者さんに関わり、支援センターへの協力で地域の方と調理実習もしました。

いろいろな経験のなかで「おいしくて体も心も元気になる食事を食べていただきたい」という事が10年前も現在も変わらぬ思いです。

毎月手作りの行事食にカードを添えて季節感を味わっていただきます。



おせち料理



クリスマス



母の日



硬いものが食べにくい、むせやすいという患者さんへは食べやすい形態で見た目にも楽しめるソフト食が好評です。



栄養管理をするための身体計測を行っているところです。



栄養課スタッフ

長岡管理栄養士（左端）と委託業者の日清医療食品の皆さん

在宅医療部



事務副主任 菊地 豪

最近「在宅医療」という言葉を耳にする事が多いと感じている方も少なくないのではないのでしょうか。

在宅医療には「往診」と「訪問診療」という制度が混在しています。お互い診療を行なう事には変わりはないのですが『患者さんの求めに応じて行なう』診療が往診、『定期的ないし計画的に訪問して行なう』診療が訪問診療となります。訪問診療は居宅において療養を行なっている方で通院が困難な方が対象となります。

沼尾病院では、故沼尾嘉時前理事長が他院に先駆け「在宅ケアの推進」に取り組み始め、平成7年に高橋昭彦先生（現在・ひばりクリニック院長）が在宅医療部長として就任し、在宅医療部を立ち上げ在宅医療を開始しました。高橋先生は、栃木県内の在宅医療の先駆者的に活動しご活躍をなさいました。高橋先生の活動を知り当院の在宅医療部に多くの方が相談に訪れ利用者も徐々に増えていきました。

平成13年3月に高橋先生が退職なされた後、

並木医師が兼任の形で引き継ぎ、古谷医師、池之内医師と共に、訪問診療を行っています。4年後の平成24年3月末には介護療養型医療施設の廃止、また全国に38万床ある療養型病床が15万床に削減されます。医療の必要度が低い患者さんは在宅、居住系サービス又は老人保健施設等で対応する事になります。削減される23万床のうち6～7万床が在宅若しくは居宅系サービス等に推移すると予測されています。

そもそも在宅医療は、不必要な長期入院を是正し、出来るだけ入院医療から地域及び家庭における医療への転換を促進するという基本的な考え方のもとに推進されてきました。

当院の在宅医療部といたしましても、この6～7万床に該当された方々がご自宅で安心して療養生活が送れる様、微力ではありますがお手伝いをさせて頂ければと考えております。

最後に、沼尾病院在宅医療部はこれからも地域に密着し、ひとりでも多くの方の笑顔を拝見出来るよう、精進していきたいと思いますのでご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。



並木医師 訪問診療の様子

在宅総合センター

在宅総合センターのあゆみと 今後の抱負



センター長 木立 三枝

当法人が平成7年から目標としてきた「医療・福祉の分野で、地域の方々に様々なサービスを提供する在宅ケア」の基盤が、平成13年在宅総合センターとしてスタート、介護保険制度の下、近隣の医療施設、介護サービス事業者と連携し順調に内容が整い、医療・看護・介護の中心的な役割を担っています。

経緯として、平成7年に開始した在宅医療部門と、平成8年開始の訪問看護ステーション星が丘のサービス活動を基に、平成10年在宅介護支援センター「きよすみ」が地域の総合相談窓口として宇都宮市より委託を受け、戸祭・昭和地域に密着した支援を継続しています。

さらに、平成12年の介護保険制度施行と共に居宅介護支援事業をきよすみ（現在は野の花に名称変更）として開始しました。1年間介護保険のサービス提供を行い、気付いたことは専門性の領域でした。在宅ケアには介護の力が不可欠であること、また、訪問看護は老人訪問看護として制度化されたため、介護の部分を多く担っていた実情から、看護の専門性を高める必要性に迫られていたこと等を改善すべく、平成13年4月、「ヘルパーステーションぬまお」を開設しました。開始直後から利用者が急増、訪問介護のニーズがいかに高いかを痛感しました。

時期を同じくして、ぬまおグループである2

つの法人、洋精会・宝生会が人事考課、面接制度を実施、その目的である人材育成、法人の理念方針の理解、徹底が徐々に図られ、理事長の経営ポリシーである人間愛＝Omsorg（オムソーリ）の精神を基本とした理想的な職場環境が整ってきています。そして、各部門とも、地域から資質の高い事業所として信頼が得られています。

今後の方向性としては制度サービスを提供する事業所の、社会的責任として、利用者・御家族様から信頼されるのは当然のこと、同業者の中でもモデル的な質の高い事業を展開するマグネット事業所づくりを追及、従事する職員も各個人の有する能力を十分に発揮し、専門職として満足な仕事ができる総合センターづくりが私の任務と認識しております。

今後ともご指導の程、宜しくお願い申し上げます。



地域のニーズと歩む



所長 阿部 フミ

訪問看護ステーション星が丘は、平成8年4月に開設し、今年で満12年を迎えました。当初は2.5人の職員で開始し、主に高齢者への訪問でした。平成12年に介護保険制度が創設された後は、在院日数の短縮化、療養病床の削減などの社会背景も加わり、住み慣れた地域や自宅での療養を選択する利用者も増え、星が丘の利用者層にも大きな変化がありました。それに伴い、多岐にわたる訪問看護の需要が増え、今こそ私たち訪問看護師への期待の高まりと、活躍できる場の拡大を感じています。

現在の利用者状況は、最年少は6歳児から、101歳の超高齢者まで年齢も幅広く、また疾患も多様化しています。中でも人工呼吸器装着者等、医療依存度の高いケースが増加しています。そのため、現在は常勤職員5名（保健婦1名、看護師4名）、非常勤看護師2名、理学療法士2名（兼務）の9名で日々の活動をしています。

変化をしたのは利用者、職員だけでなく、

連携医療機関も40数ヶ所となり、直接医師からの訪問看護依頼が増えています。また、ケアマネジャーとの関わりも増し、30ヶ所以上の居宅介護支援事業者から依頼を受けています。地域で生活する利用者を支援するには、医療・福祉との連携が不可欠であり、多機関とのより良い関係作りを大切にしながら、業務に取り組んでいます。

新たに訪問看護認定看護師制度ができ、全国で35名が活躍中です。その中に県内第一号者が星が丘に在職し、大変名誉あることです。さらに、看護学校の教員経験者・呼吸療法認定士・救急救命士等、各資格を有した職員が、得意な分野で活躍しています。また理学療法士も専門性の高いサービスを提供していることは、大変心強く思います。

今後の「星が丘」の展望は、地域のニーズに応え、貢献するために、訪問看護の業務のみならず多機能化を図っていくことです。職員一人ひとりの力を十分に発揮させ、利用者と共に、生き生きと活動していける環境を整えつつ、一丸となり邁進していきたいと思えます。



訪問看護ステーション星が丘 スタッフ一同



専用自転車に人工呼吸器を積んで放課後を満喫中



理学療法士の訪問リハビリテーションの様子



携帯酸素を使用し、ご自宅周辺の運動を兼ねた散歩



宝木本町にある、ぬま内科内に、訪問看護ステーション
星が丘・サテライト宝木を設置し、サービス提供エリアを
拡大。

ヘルパーステーションぬまお



サービス提供責任者

今村 久子

平成13年4月1日にヘルパーステーションぬまおが開設し早7年になろうとしています。ヘルパー、利用者1名からスタートし現在はヘルパー28名利用者120数名と大所帯になりました。開設当初は介護保険制度を理解できない利用者が多くヘルパーと家政婦を同等に解釈され理解して頂くまで数年かかりました。現在は多くの方々に理解されご利用頂いております。

様々な生活を歩んで来られた人生の大先輩をお世話させて頂くことは大変ながら学ばせて頂く事もたくさんあり、とてもやりがいを感じられる仕事です。利用者より「ありがとう。ヘルパーさんが来てくれるので生活していける・・・」等と言葉を頂くと一挙に疲れが飛んでしまいます。

さて、当事業所が今あるのは、ひとえにバイタリティ豊富で逞しく優しさを兼ね備え、常に利用者の立場に立って支援を行う登録ヘルパーさんの協力の賜物と思っております。ヘルパーさんは年齢層が広くそれぞれ個性的です。又母一人でお子さんを育てているヘルパーさんが多いのも当事業所の特徴です。皆さん協調性に富み、年齢に関係なく先輩・後輩と言うモラルをわき

まえコミュニケーションを図っております。入れ替わりの激しい職種でありながら退職者も少なく職員には本当に恵まれている現状です。

当事業所は発足してから順調に運営されてきましたが平成18年に介護から介護予防重視へと転換した大幅な制度改正に伴い厳しい状況に迫られました。当初は徐々に影響を受けていたのですが、追い打ちをかけるように他社の不正問題が発覚し在宅での支援が減少、下降の一途をたどることとなり開設以来、初めて営業を行うような状況となりました。介護現場の7割以上の事業所が「だんだんと運営が難しくなっている」という調査結果も出ている時勢です。

そのような状況下、利用者と一緒に泣いたり、笑ったりと変化に富んだ日々の中、年輪を重ねた素晴らしい笑顔に会うため介護保険は勿論のことオプションサービスにも力を入れ職員一丸となって今後も頑張っていきたいと思っております。



車椅子に移乗されヘルパーと一緒にタオルをたたんでおられる素晴らしい笑顔。今年百歳を迎えられる利用者様です。



朝のミーティング風景



要支援でヘルパーと一緒に、布団を敷いておられる94歳の利用者様です。



ヘルプーステーションぬまおスタッフ一同です。

ケア工房 野の花



主任 介護支援専門員

田中 宣行

私たちは、高齢者の方が体が不自由になっても住み慣れた地域で、その人らしい生活を送れるよう本人、ご家族と一緒にその方法を考えてゆくケアマネジャーの事務所です。

平成12年、介護保険が新しい社会保障制度として開始されたときに、在宅介護支援センターきよすみという名称で宇都宮市委託事業と居宅介護支援事業との二枚看板で運営しておりましたが平成18年4月、地域包括支援センター業務の委託を宇都宮市から受けることを期に、ケアマネジャー部門を「ケア工房 野の花」と名前を変更いたしました。

「ケア工房 野の花」の名前には、高齢者の方々の人生、生活をそれぞれ色形の違う野に咲く多種多様な花にたとえ、おひとりおひとり異なる人生を尊重しながら、これからの生

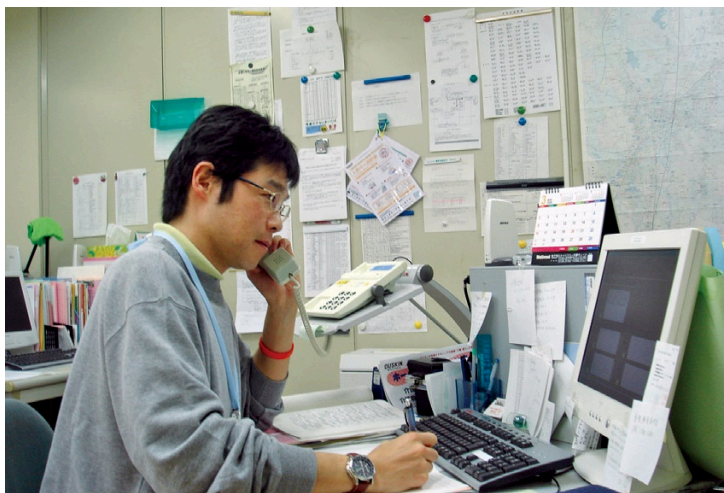
活を創造してゆくライフデザイン事務所（工房）という思いが込められています。

現在担当しているご利用者様の8割を星が丘、松原、清住、戸祭など沼尾病院周辺の方々が占めております。これは如何にこの地域が高齢者の町であるかを実証するものではないでしょうか。このような地域性から私たち高齢者福祉、介護の専門職に課せられた役割は大きく、また介護の仕事のひとつかけらを担う私たちは、個人の尊厳を保持することは勿論、その方の人生に関わる大切な仕事であることを常日頃痛感しております。

私たちケアマネジャーの仕事は単独でできるものではありません。医師をはじめ、訪問介護やデイサービス、福祉用具事業者などさまざまな専門職と連携し協力があることであります。ご利用者様に対し医療・保健・福祉サービスの包括的支援の担い手となり、ご利用者の皆様が少しでも心地よい生活ができ、普段の生活の中で笑顔が見られるような支援を、これからも続けてゆきたいと思えます。



ケア工房 野の花スタッフ



電話はご利用者にとっての命綱、懇切丁寧に対応する



ミーティング風景



月に一度の訪問ではご利用者の生活の変化を確認する

地域包括支援センターきよすみ



副主任

看護師 武田 安子

地域包括支援センターきよすみは平成18年4月の介護保険の改正により、高齢者の健康の維持、生活の安定や保健医療の向上、福祉の増進を包括的に担う地域の中核拠点として設置されました。高齢者の皆様が住みなれた地域で、尊厳あるその人らしい生活ができる事を目指し支援をしています。

地域には様々な高齢者やそのご家族が抱える問題も多く社会的支援のニーズも多種多様で二つと同じ事例はありません。個々のケースに対応できるように、地域包括支援センターには、主任介護支援専門員、社会福祉士、看護師の3職種の専門職が従事し①総合相談業務②虐待防止・早期発見・権利擁護③包括的・継続的マネジメント支援④介護予防マネジメントの業務を中心に行なっております。相談者は大きな不安を抱えながらどのようなサービスを利用すればよいかかわからない事が多いため、それらの問題に適切に対応しサービスに繋がるよう、また御本人様やご家族様も安心して過ごせるよう毎日自転車で訪問活

動をしています。

また、地域におけるネットワークの構築業務として、定期的に地域会議を開催し自治会長、民生委員、福祉協力委員の方たちとの情報交換を行ないながら共通の問題点を見出し認知症のある方、閉じこもりの方達の見守り活動などを通して必要な連絡機関との調整を行ったり、安否確認をするケースも少なくありません。また地域の行事にも積極的に参加させていただき私達の業務内容を理解していただく事で1人でも多くの方々が悩みや不安を抱えず相談できる場所として周知していただければと考えております。

この地域包括支援センターの業務はこの原稿に書き足りない程の幅広い業務がありますが、3職種の他に介護予防教室や介護予防プラン専任の看護師3名とあわせて6名の職員で心一つにし、地域の皆様が安心して過ごせるよう個々に自己研磨して支援できるよう携わっていきたいと思います。



地域会議

戸祭・昭和地区にお住まいの皆様が住み慣れた地域で安心して生活できる環境づくりを行なうため、地域の各委員様に御参加いただき、定期的に情報交換を行なっています。



ご自宅に訪問し、健康・福祉・介護などの相談を受け、総合的な支援を行なっています。



介護予防教室 月1回、戸祭・昭和地区において、地域の皆様が健康でいきいきとした生活が送れるように健康チェック・体操・講話・レクリエーション等を行なっています。



地域包括支援センターきよすみスタッフ

前列左より

谷口、武田、伴 後列左より 清水、岡田、田村

ぬまお内科

ぬまお内科からこんにちは



看護師 石塚ム女子

平成八年十一月宝木本町にぬまお内科、循環器科が開院しました。市街化調整区域の特別区の為、囲りの民家や、田園、畑、雑木林、竹林、梅林、高速道路と、どこを見ても、月日の流れを忘れていたかの様に、景色は変わっておりませんがでも開院当所より受診されている方とは、顔馴染みになり家族の事や兄弟姉妹の事などを少しづつ話して頂ける様になり良い信頼関係づくりが出来てきたと思います。時には、待合室が座談会場になってしまう事もありますが、何を話しているのか楽しそうな笑い声が聞こえたりしています。

診察の順番がきても急がせず、あわてせず、充分時間を使って納得して帰って頂けます様心掛けております。又ぬまお内科の隣接地には特別養護老人ホーム敬祥苑、老人保健施設白楽園があり、両施設入所者のインフルエンザ予防接種急変時のレントゲン撮影、心電図、血液検査等々の検査や、約百五十名の職員の健康管理、日常生活の病気や怪我の治療などに、力を発揮しております。開院十二年になりますがまだまだ力不足で、ご利用して頂いている方々に、ご不便やご迷惑をおかけしているのではないかと考えております。これからも皆様にいろいろご指導をいただきながら、一日一日努力してより良いぬまお内科になれる様頑張っていきたいと思えます。

まだ自然が沢山残っており、とてもいやされますよ、近くに来た折にはぜひ声をかけてみて下さいお待ちしております。



ぬまお内科外観



前院長 池之内医師診察



レストルーム



手前より受付、レントゲン室、処置室、診察室
訪問看護ステーション星が丘・サテライト宝木。



左より石塚看護師、池之内医師、井上放射線技師、大塚事務員

患者様からの声

沼尾嘉時先生への手紙



小野沢 久

今年二月某日、沼尾病院から丁重な文書を受け取った。この記念誌の原稿執筆依頼であった。その時は、折角の指名ではあるが辞退しようと思った。お祝いの気持は山々だが私は比較的若くして体調をくずし、現役を引退して以来二十年の今日まで、闘病第一の生活を優先し、社会生活での、特に晴れがましい事柄は、控え目にと考えていたからである。

ところがその夜、仲々眠りつけぬままあれこれ考えているうちに、確か昭和三十三年秋当時「肛門科は沼尾さん」と世間で評判の時代に、嘉時先生のご尊父、義精先生によって手術を受けて完治した事。その後の嘉時先生からは入院や外来で、亡くなられる直前までの二十余年お世話になった事。そして現在は引き続き、並木（賢司）先生に診ていただいている事。これ等を考えただけでも、沼尾病院と私は、本当に深いご縁があるのだと改めて気付き、それならば一患者として何か申し上げなくては、... そうだっ。

沼尾嘉時先生に手紙を書こう。

「沼尾先生、その後いかがおすごしですか。早いもので先生とお別れして二年目に入りました。私は引き続き並木先生のお世話になっております。

さて先生、先生は亡くなる数日前にお電話を下さいました。突然でしたから初めは大変驚きとて

も嬉しかったのです。ところが「もう駄目なんですよ」と言われたので呆然となり、そんな苦況の最中お電話を下さった事を申し訳なくただただ涙したのでした。

そして二人は「医師と患者は信頼によって成り立つ」事を確認いたしました。私は今でも先生にめぐり会えた事を幸せに思っております。

先生 私はいつ頃からか、自分の人生最後の診断書は、先生に書いていただこうと決めておりました。私よりも若い先生が先に逝かれてダメになりましたから、今度折をみて並木先生にお願いしておこうと思っております。

先生、おそくなりましたが「沼尾病院創立七十年」おめでとうございます。本来ならばこの輝かしい祝賀の中心には、ゆるぎない本格的な土台を築き、その上に進路を決断してレールを敷いた先生の笑顔がある筈でした。誰もが今日の晴舞台に先生の姿の見えない事を淋しく残念に思っていることでしょう。

でも先生、ご安心下さい。洋精会は関係者全員が一致団結、誇りを持ち、使命感に燃え時代の要請に応えて社会に貢献し続けております。

特に高齢者問題、就中、老人医療はいつでもが時の問題であり、しかも問題は山積しております。関係者が精進を重ね、法人が実績を積んでゆけば、洋精会がやがて八十年、九十年、百年へとさらに発展されることは間違いありません。

先生、洋精会へのご加護とご支援を願って止みません。

安らかにおすごし下さい。」

敬 具

平成20年3月吉日

小野沢 久

故沼尾先生との思い出



長谷川雅士

私と沼尾病院との出会いは、前洋精会理事長でいらした故沼尾嘉時先生を抜きには語れません。残念ながら先生は平成十八年に他界されました。私の命の恩人である沼尾先生のせめてものご供養に、という万感の思いを込め、私と先生との思い出をお話することで洋精会七十周年のお祝の言葉に変えさせていただきたいと思います。

ちょうど今から二十年前になります。六十歳目前だった私は、心臓の不調を覚え近くの病院に向かいました。心電図を撮ると太り過ぎと診断されましたが、この息苦しさが普通ではないと直感的に感じました。知人に沼尾病院を紹介されたのは、そんな折です。そこで私は東京の大学病院から戻られて、当時院長を務めておられた沼尾先生に初めてお目にかかりました。私にとっては”運命”といえる出会いです。もしこの出会いがなければ、私はとうにこの世からいなくなっていたことでしょう。沼尾先生は私の心電図を見て「このままはおっておくと心筋梗塞症になりますから、すぐに手術しましょう。どこの病院にしますか？」ときっぱり言われました。

私が東京の病院を希望すると、「それなら私のいた東京女子医大は優秀な先生が多いですから」とそちらを紹介してくださったのです。間もなく東京に向い、手術は無事成功しました。まだ集中治療室にいた私をひょっこり沼尾先生が訪ねて来られました。先生は口に器具を装着し話す

ことができない私の顔をしっかりと見つめ「沼尾ですけど、長谷川さんおわかりになりますか？心配ありませんよ。私がよく頼んでおきましたからね」と声をかけてくださいました。患者さんを第一に考える一意専心な方でした。当時はまだポケットベルの時代で、先生は「何かあったら長谷川さん、すぐ連絡してください」とお休みの日もポケットベルを片時も離していなかった様です。私は本当によくしていただきました。真面目に治療していたせいもあったのですが「私も頑張るから、長谷川さんも本気になってください」という沼尾先生のひと言に胸が熱くなり。私は二十年という長い間治療に通うことが出来ました。先生は一生懸命に治そうとする患者には、本気になって応えてくださる方でした。

そして二年前のあの日、私にとって生涯忘れることのできない日が訪れました。先生から電話があり、静かな、落ち着いた声でこう切り出されました。「長谷川さんは私が看取ってあげたかった。でも、わたしが先に失礼することになってしまって・・・」と。その時初めて、私は先生が末期の肺がんであることを知りました。「長谷川さんの身体については細かいことまでちゃんと引継ぎをしておきましたから」と御自分の命の灯が消えようという寸前まで、先生は患者のことを気にかけてくれたのです。その二日後、先生は逝ってしまいました。

今でも沼尾先生の私に語りかける時の優しい表情や言葉が、ふっと頭をよぎります。手術以来、先生と二人三脚で歩んできた私も、今年で七十九歳を迎えます。沼尾先生のご恩に報いることは何であるかを考える時、やはり私が健康でいること、先生からいただいた人生を一日でも長く生きることが一番のご恩返しになると、そう思わずにはられません。

患者様からの声

祝 創立七十周年 —お世話様を頂いております—



ヘルパーによる被援助者

北村 作二

沼尾病院様には、昭和十三年の創立以来の七十周年、人生にたとえれば将に古稀を迎えたこととなりましょうか。古稀は昔から人間にとってはめでたい人生の一転期として大切にされておりますが、このたびの七十周年心から御祝いを申し上げます。

沼尾病院様は、創立初代の院長様の義精様続く第二代は嘉時様そして現在の理事長成美様と三代に亘り、地域医療・介護事業等の中核体として御活躍、見事な実績を収められて今日の隆盛をいたされておられます。創立七十周年重ねておめでとうを申し上げます。

私は若い頃に、縁あって初代院長先生には何回にも亘ってお世話様に与り温かい治療活動を頂きました。その時々院長先生とのありがたい出会いは今でも忘れることができません。第二代の嘉時先生は、わが家の子供達とは、当時の師範附属校（現宇大附属校）の学友仲間とお世話様になりました。今にして懐かしい思いがございます。

私は現在徒らな馬齢を重ねて九十四歳になりますが、今から五年前の夏庭木の剪定中に右足の踵を骨折、骨折が治った後に常時の腰痛となり歩行や日常の動作が不自由のため、沼尾病

院様グループの「白楽園」や「きよすみ」の方々の御指導を受け、この五年間というものは引き続いてヘルパーステーション「ぬまお」様の皆様のお世話を頂いております。只今のところは週三日お三人のヘルパーさんが交代で御来宅下され、要支援（2）の該当者としての「生活援助」を受けております。お蔭様で私は老齢ながら、自分なりの自立した日常生活を過ごすことができております。まことにありがたいことでございます。

さて私は、ここでヘルパーさんの「生活援助」について改めて考えてみたいことがございます。それはヘルパーさんの日常生活の援助はさることながら、大切なことはヘルパーさんの「生活援助」が、実は私の行き方を支える精神的な援助でもあるということです。

その第一は、ヘルパーさん達に共通する緊張感のある熱心な仕事への取り組みの姿勢が、老齢の毎日が日曜日の私の生活姿勢を、いつしかきちんとした緊張感のある生活姿勢に変えて下さっているということです。

その第二は、私が、今日の社会人として生きるヘルパーさんの生き方や考え方に出会うことで、私のまともな社会人としての行き方を蘇らせて下さっているということです。

これらは私にとっては、まことに得難い大切な精神的な援助であると考えられます。

拙文意は尽し得ませんが、こうした心身両面に亘る「ぬまお」様の御支援に対しまして衷心より感謝申し上げますとともに、記念すべき創立七十周年を迎えられる沼尾病院様の、今後の一層の御発展を心からお祈り申し上げまして筆をおかせて頂きます。

妻との日々



佐々木 剛一

洋精会・沼尾病院創立七十周年おめでとうございます。人の年齢では古希、ここまで生きられるものは希とされていました。加えて、太平洋戦争の戦前、戦中、戦後と激動の時代を乗り越えてこられたには大変なご苦労があったものと推測します。私の妻が多岐にわたってお世話いただき有り難く思っておりますのでお礼の意味も込めてお祝いの言葉を呈したいと思います。

平成十年晩秋の頃、和子はW病院を後にしました。担当医師から「リュウマチは炎症が治まったから退院をしてもよい。」といわれましたが、自分の力では立って歩くこともできない状態でした。入院したときには介助があれば歩くこともできたことを思えば、どうにも割り切れない気分でした。

ケア工房野の花ケアマネジャー岡田さんの計らいでベットと車椅子のレンタルが間に合ってホッとしましたが、トイレに行くのが大変で背負って連れて行く始末。それでも昼間は何とかやっていけましたが、夜ともなれば朝まで一晩で七回も寒いトイレに通う、こんな日が続けば寝る時間もなく、和子もかなり辛かったようでした。こんなことで果たして

無事にこの冬を乗り切れるのか。泣き言をいえば自分に負けることになる、和子に掛けた「頑張れ」は自身を励ますものでもありました。周囲からは「入院しないと共倒れになる」との忠告もうけましたが、入院中の和子の姿が忘れられない私は、応じる気になれませんでした。娘が会社を早く抜けてきて「私がいるから息抜きをしてくて」と言ったことも何度かありました。そんな中、岡田さんが訪問看護ステーション星が丘を紹介してくれ、その後ぐっと楽になって、現在は自宅にベット、テーブル、車椅子は内用と外用の二台、外へ出る時用の升降機なども備えられ、沼尾病院通所リハビリテーションと訪問看護ステーション星が丘は月二回、デイサービスが週二回、ショートステイが月一回、それぞれ利用させていただいております。

お陰様で退院当時の痩せて暗かった和子の面影はどこにもなく、私も昔の仲間達の交流や地域の組織活動等にも使う時間ができました。どんなに力んでも個人の力には限界があります。洋精会所属の皆さんや多くの支えがあって私たちの健康や暮らしがまもられていることを痛感しているところです。

これからますます高齢化が進み、看護・介護のお仕事も増加することは必至ですが、皆さん方の労働条件や健康も気になるところです。元気な顔で、私たちのお世話を願えればと思います。

おわりに洋精会・沼尾病院の、今後益々ご発展されることを祈念して感謝の言葉とさせていただきます。

編集後記

沼尾病院 院長 古谷 耕資郎

60周年から早くも10年たちました。記念誌が残っていると、当時と現在の状況を比較することができて、懐かしさとともに、変化を感じ、さらに将来への意欲もわきます。確かに医療や介護技術のごく一部は、10年の間に進歩しており、年々改善されてきています。しかし、高齢者の病気とその家族がかかえる問題については、根本的な解決法はなく効率的に進められるように進歩はしていません。

病気については対症療法しかなしえず、介護や社会的な諸問題については、多くの関係者が、非効率ですが、いちいち人の手を介して支えていかなければいけないのです。これほどの手間に見合った資金がもっと投入されれば、もっと明るい展望が開けるものと期待しています。逆に、抑制すれば、それなりの成果どころか、崩壊していくのではないかと心配しております。

70周年にあたり、「現在」を記録にとどめて、また10年後に比較することが楽しみです。

編集委員

委員長	沼 尾 成 美（洋精会理事長）
委 員	古 谷 耕資郎（洋精会常務理事）
"	吉 川 洋（沼尾病院事務長）
"	高 橋 進（事務副主任）

創立70周年記念誌

発 行 平成20年7月8日

発行者 医療法人社団洋精会 理事長 沼尾 成美

〒320-0038 宇都宮市星が丘1丁目7番38号

電話 028-622-2222 FAX 028-624-2228

印刷所 (株)松井ピ・テ・オ・印刷

〒321-0904 宇都宮市陽東5丁目9番21号

電話 028-662-2511 FAX 028-662-4278



医 療 法 人 社 団

洋精会沼尾病院